



斑点米カメムシ類大発生

～「草刈り」と「薬剤散布」を組み合わせた対策の徹底を～

本年も斑点米カメムシ類（アカスジカスミカメ・アカヒゲホソミドリカスミカメ）の発生が多く、特にイネ科雑草が出穂している畦畔や休耕田等の雑草地、ほ場内にノビエやホタルイが残っているほ場では、すくい取り頭数がおおくなっています。

ほ場内や畦畔除草と薬剤防除を組み合わせ、斑点米被害を抑えましょう。

■主なカメムシの特徴と防除概要



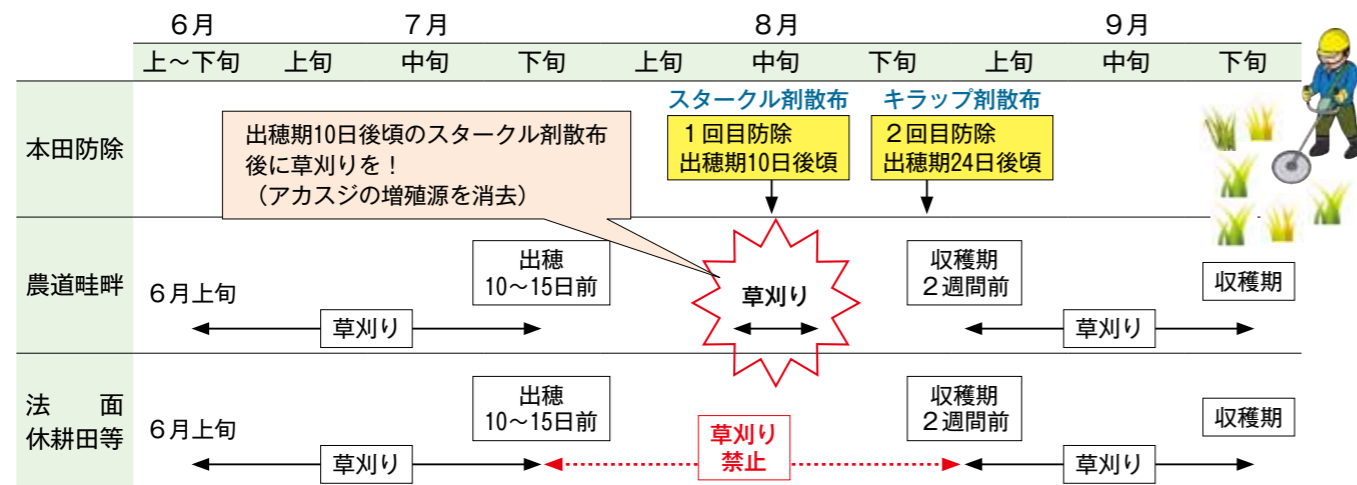
体長：成虫で4.6～6mm程度
 特徴：ノビエ、ホタルイ等のカヤツリグサ科の穂に産卵する。稲にはほとんど産卵しない。



体長：成虫で5～6mm
 特徴：水田内で一生を過ごし、稲の穂に産卵する。

～耕種的防除～

アカスジカスミカメはノビエやホタルイの雑草の穂に産卵し、増殖するため、出穂期10日後頃の茎葉散布剤散布後5日以内に畦畔や農道の草刈りを実施し、アカスジカスミカメの増殖地を無くしましょう。この期間を過ぎるようであれば草刈りは行ってはいけません。その後は収穫2週間前までは草刈りはしません。



～薬剤防除～

通常の防除は出穂期10日後頃の1回散布を基本としますが、発生量が多い場合は、出穂期10日後頃と出穂期24日後頃の2回散布を基本としましょう。

散布計画の策定と薬剤の準備は早めに行いましょう。

散布時期	薬剤名	希釈倍率／散布量 (10aあたり)	適正使用基準	
			使用時期	使用回数
出穂期10日後頃	スタークル粉DL	3kg	収穫7日前まで	3回以内
	スタークル液剤	1,000倍／150ℓ		
追加防除 出穂期24日後頃	キラップ粉剤DL	3～4kg	収穫14日前まで	2回以内
	キラップフロアブル	2,000倍／150ℓ		

登熟期間の高温は水管理で対応！

～出穂後は水管理・いもち・カメムシ対策に重点を置きましょう～

■気象予報：東北地方1か月予報（仙台管区气象台 7月24日発表）

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（％）〉

【気温】	20	40	40
【降水量】	20	40	40
【日照時間】	40	40	20

〈気温経過の各階級の確率（％）〉

1週目	20	50	30
2週目	20	50	30
3～4週目	20	40	40

凡例： ■ 低い ■ 平年並 ■ 高い

〈予報の対象期間〉

- 1か月：7月26日(土)～8月25日(月)
- 1週目：7月26日(土)～8月1日(金)
- 2週目：8月2日(土)～8月8日(金)
- 3～4週目：8月9日(土)～8月22日(金)

7月24日に仙台管区气象台から東北地方1か月予報が発表されました。

今後1か月間は気温は平年並から高め、降水量は平年並か多め、日照時間は平年並みか少くなると予想されています。

こまめに天気予報をチェックし、適切な水管理、病害虫防除を行い、よい稔りの秋を迎えましょう。

～トピックス～

【斑点米カメムシ発生状況について】～秋田県病害虫防除所 7月5半旬調査結果より～

今年の斑点米カメムシ類のすくい取り調査の結果、発生は畦畔では平年並みとなっていますが本田ではすべての地点で“多い”となっています。今年度は本田への侵入が早くなっており仙北管内でも、ほ場に調査に入ると目視でカメムシが確認できるほど発生しており十分な注意が必要です。

畦畔すくい取り地点率（7月5半旬）

	アカスジ（成幼虫）				アカヒゲ（成幼虫）				斑点米カメムシ類			
	県北	中央	県南	全県	県北	中央	県南	全県	県北	中央	県南	全県
2014	9.7	13.3	23.1	16.0	12.9	53.3	38.5	35.0	22.6	60.0	41.0	41.0
2013	12.9	23.3	10.3	15.0	25.8	36.7	17.9	26.0	29.0	50.0	25.6	34.0
平年	5.5	12.6	5.6	7.6	32.1	37.8	30.3	33.6	37.2	45.5	39.6	41.2
概評	やや多	並	多	多	小	やや多	やや多	並	やや小	多	並	並

本田内すくい取り数（7月5半旬）

	アカスジ（成幼虫）				アカヒゲ（成幼虫）				斑点米カメムシ類			
	県北	中央	県南	全県	県北	中央	県南	全県	県北	中央	県南	全県
2014	1.7	1.3	0.3	1.0	0.4	0.1	0.2	0.2	2.1	1.5	0.4	1.2
2013	0.3	0.3	0.5	0.4	0.4	0.2	0.0	0.1	0.5	0.5	0.5	0.5
平年	0.1	0.1	0.0	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.2	0.3	0.2	0.2
概評	多	多	多	多	多	並	多	多	多	多	多	多

※詳しい防除対策は4ページ（ウラ表紙）に記載しております。



注意
 台風の進路が発表されたときなどの
 かけ込み加入はできません。

参考)4間×10間のハウス
28万9千円の補償金額
 掛金は6,573円(12ヶ月)です

■ 水稻定点調査結果 7月25日現在（仙北地域振興局農林部農業振興普及課）

	草丈 cm	茎数 本/m ²	葉数 葉	SPAD (葉緑素計値)
本年値	76.1	532.5	12.0	37.1
平年値	74.0	461	12.0	38.0
平年比	103%	116%	0	98%
前年値	76.1	518	12.0	37.8
前年比	100%	103%	0	98%

あきたこまち10地点

○ 定点調査結果

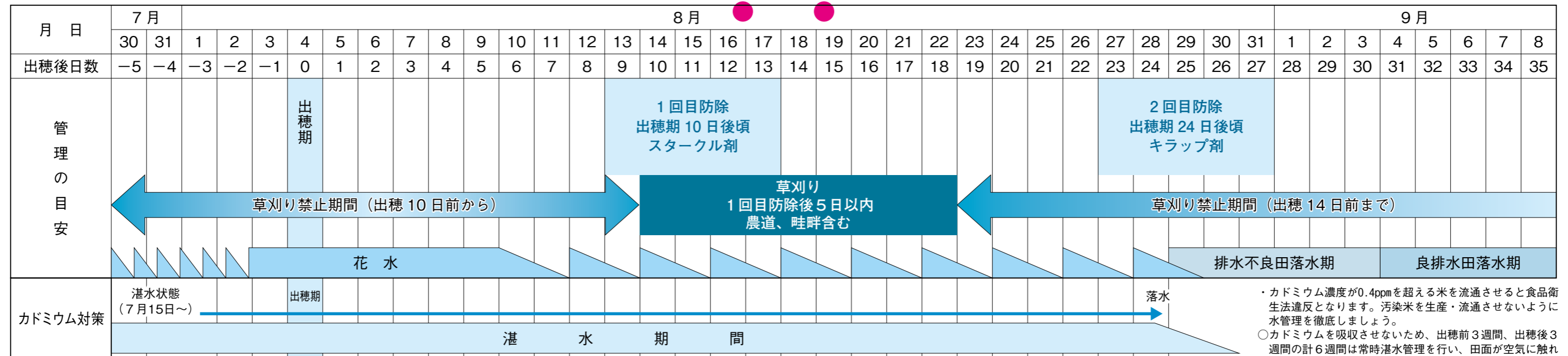
7月25日調査の「あきたこまち」の生育は、草丈76.1cm（平年比103%）、茎数532.5本/m²（平年比116%）、葉数12.0葉（平年差±0葉）、葉色37.1（平年比98%）となっています。草丈がやや長く茎数がかかなり多くなっており倒伏に注意が必要です。

これまでの生育状況から、出穂は平年よりやや早くなる見込みです。

■ 出穂期からの水管理

- ① 出穂当初は水を多く必要とする時期なので、出穂後10日間は5～6cm程度の水深で湛水します。その後は2～3cmの浅水、間断かん水とします（下図参照）。
- ② 落水の時期は、概ね出穂後30日とします。早期に落水すると葉色の低下、枯れ上がり、根の機能減退により収量、品質、食味が低下する場合がありますので注意してください。
- ③ 根の活力を維持するため、気温が30℃以上になる日は夜間にかん水し、昼間は落水管理を行い地温を下げましょう。
- ④ フェーンなど乾燥した風が強く吹送する場合は湛水にします（登熟期に乾いた強風が吹くと予想される場合は特に注意が必要です）。

出穂期以降の水管理・斑点米カメムシ対策



・カドミウム濃度が0.4ppmを超える米を流通させると食品衛生法違反となります。汚染米を生産・流通させないように水管理を徹底しましょう。

○カドミウムを吸収させないため、出穂前3週間、出穂後3週間の計6週間は常時湛水管理を行い、田面が空気に触れないよう管理してください。（田面が露出すると土壌が酸化し、カドミウムが吸収されやすくなります）。

※出穂が8月4日の場合の目安

■ 白粒・胴割れ粒対策 ～水管理で高温登熟を防ぎ、白粒・胴割れ粒の発生を防ぎましょう～

○ 高温登熟被害粒の発生要因と技術対策

項目		気象的要因	栽培的要因	技術対策
白未熟粒	乳白 心白	出穂後4～20日頃の高温	籾数過多	籾数制御 かけ流し 夏期常時湛水
	背白 腹白	出穂後16～24日頃の高温	登熟期後半の肥切れ	穂肥 かけ流し 夏期常時湛水
充実度不足粒		登熟期間の高温	登熟期の肥切れ	穂肥 かけ流し
胴割れ粒		出穂10日間の高温	登熟期の肥切れ 早期落水 刈り遅れ、過乾燥	穂肥 かけ流し 夏期常時湛水 適期刈り取り、2段乾燥

■ 穂いもち対策 ～葉いもちの発生に伴う穂いもち防除について～

葉いもちの発生が全く認められず、周辺の発生田からの伝染の影響のないほ場では、防除の必要はありません。ただし、葉いもちが多発しているほ場が隣接している場合などは、出穂期～7日後にラブサイド剤の茎葉散布をしてください。

また葉いもち発生が認められるほ場では、出穂直前と穂揃期にラブサイド剤またはビーム剤の茎葉散布をしてください。

無人ヘリ以外の防除方法について

散布のポイント	薬 剤 名	希釈倍率／散布量 (10aあたり)	適正使用基準	
			使用時期	使用回数
予防剤と治療剤の混合剤	ブラシン粉剤DL	3～4kg	収穫7日前まで	2回以内
	ブラシンフロアブル	1,000倍／60～150ℓ		
出穂直前と穂揃期の2回 ※多発時は傾穂期に追加防除	ラブサイド粉剤DL	4kg	収穫7日前まで	3回以内
	ビーム粉剤DL			
	ラブサイドフロアブル	1000～1500倍／60～150ℓ		
	ビームゾル	1000倍		

※ラブサイド剤の成分であるフサライドの総使用回数は「3回以内」、ビーム剤の成分であるトリシクラゾールの総使用回数は「本田では3回以内」となっています。ラブサイド剤、ビーム剤及びその混合剤（ブラシン剤等）を使用するときは、各成分の総使用回数を超えないように注意してください。

※ビームゾルは傾穂期以降に散布すると薬害を生じることがある。